

「ユリカモメに白Pの足環をつけたのはだあれ」
カラーマーキングネットワーク物語
須川恒・佐藤達夫

はじめに

氏名は敬称略。初出以外は、日本人は姓を、日本人以外は名を使う。ロシア人の父称は略す。きめ細かくは問い合わせしていないので、ウェブで得られた情報などを元に想像で書いている部分を含む。

ロシア・マガダンで見つかった白Pの足環をつけたユリカモメ

オホーツク海に面したロシアのマガダン市の海岸では、春と秋の渡りの時期にはユリカモメが多数みられる。2013年5月30日海岸(N 59.557626 E 150.776416)にたくさんいる、頭が黒くなった夏羽のユリカモメの中の1羽の左足に白いプラスチック製の足環がついているのをボロシノワ・マリナ(Voroshilova Marina)が見つけ数枚の写真を撮った(写真1)。白い足環にはPという文字が刻印されていた。また右足には、金属足環もついていた。マリナは誰がどこでこの足環をつけたのかと思って、写真ファイルを同じ街に住む鳥仲間のウテヒナ・イリナに送って話題とした。



写真1 白Pのカラーリングをつけた夏羽のユリカモメ

(2013年5月30日ロシア・マガダン市、撮影 Voroshilova Marina)

ロシアの猛禽類の研究保護のサイト(<http://rrrcn.ru>)に、ニジネ・ノブゴドロに住む、猛禽類研究者イーゴル・カリヤキンが管理する、非猛禽類のマーキングを話題とするブログサイトがあり(以下ロシア・ブログとよぶ)、イリナは1年後の2014年3月19日になって、このロシア・ブログに投稿し、マリナが撮影した白Pの足環をつけたユリカモメの写真(写真1)を掲載して「このカラーリングは誰がどこでつけたのでしょうか」と書き込んだ。

なぜイリナがこのタイミングで書き込んだかという、その少し前からロシア・ブログではカモメ類の標識に関する話題(エストニアで標識されたセグロカモメがレニングラードで足環回収された)が書き込まれていて、それならという勢いで以前から気にしていたこの写真を紹介した。

その書き込みに対して、ヨーロッパにはカラーリング情報に関するサイトがありユリカモメのカラーリングについても多くの情報があると書き込みがあった。このサイトにある、ユリカモメのカラーリングのさまざまなパターン一覧の図も転載してあった。7色47パターンのカラーリングに対してそれぞれ連絡先のメールアドレスが示されているものである。

<http://gaviotasyanillas.blogspot.ru/search/label/Larus%20ridibundus>

しかし白Pにあたるタイプはこの表では見つけることはできなかった(多くの人がユリカモメに標識しているので一文字のものはない)。

ロシア・ブログでのやりとりを見て、管理人のイーゴルは3月21日に、以下のヨーロッパの小型カモメ類のマーキング情報問い合わせフォームに、この白Pの情報を書き込んで問い合わせた。

<http://blx1.bto.org/euring/lang/pages/colourform.jsp?coord=KTPedersen@snm.ku.dk>

イーゴルがどうしてこのフォームにたどりついたか。須川(2008)は、ヨーロッパにカラーマーキングの観察者や調査者のための以下のサイトがあることを紹介した。

European colour-ring Birding <http://www.cr-birding.be/> このサイトはもう更新されていないが、更新が続く新たなサイトもリンクされている。これらは文字主体のサイトで、該当する足環をどう探せばよいかは判りにくい。しかしこのサイトにリンクされているカラーマーキングのついた鳥のみごとな写真を多く掲載した以下のサイトで手がかりを見つけることができる。

Photo-guide to Colour-Ringed Birds <http://www.crb-photoguide.com/>

このサイトでは、カラーリングを見つけた人はユーリングの問い合わせサイトへ行くようにリンクして勧めている。

ところで、イーゴルがどのように猛禽類の調査にかかわっているかは彼の名前を入れて画像検索をすると、彼のかかわってくる世界が見えてくる。「なかなかイケメンやん。」と彼の画像を見て須川に感想をいった女性がいた。

ユーリングのマーキング発見者のためのサイト

ユーリングでは足環に関する情報集積は BTO(英国鳥類学協会)が担当している。足環確認のため以下のような入力サイトがある。

Euring Web Recovery Form <http://blx1.bto.org/euring/main/>

ここへ行くと、ヨーロッパの 17 カ国語が国旗で選べるようになっている。例えば、英語を選ぶと、次にどんなリングタイプのマークか(金属足環か、カラーリングや首輪か、タグかなど)を選ぶようになっている。金属足環をクリックすると、BTO の本来の業務である金属足環の回収情報を入力するフォームに行く。カラーリングをクリックすると、次に鳥のグループを聞かれる。ここで小型カモメ類を選ぶと以下の入力フォームがでてくる。

Colour Ring and Colour Mark Recovery Form

<http://blx1.bto.org/euring/lang/pages/colourform.jsp?coord=KTPedersen@snm.ku.dk>

フォームに記入すると、これらの情報は BTO の担当者に送られるのではなく、小型カモメ類のカラーリング担当のデンマークのキルド・トミー・ペダーセンのアドレス (KTPedersen@snm.ku.dk)へ送られるしかけとなっている。

ここの部分のしかけ、つまり金属足環の標識とカラーマーキングの標識の連携関係はユーリングにおけるカラーマーキングのガイドラインにしたがってつくられており(須川 2011)、日本の今後のカラーマーキング情報連絡のシステムを考える上でも参考となりそうである。

キルドは、イーゴルが書き込んだ情報を 3 月 21 日中に複数のカラーマーキングの関係者が入っているメーリングリストに流して誰が標識者かを知らないかと聞いた。すると、3 月 22 日にオランダのグロニンゲンのクラス・ヴァン・ディークが、標識されたのは日本ではないかと、日本鳥類標識協会のホームページのユリカモメのカラーマーキングの英文ページの URL を紹介した。クラスがこの URL を紹介できたのは、前述した **European colour-ring Birding** に日本鳥類標識協会の英文サイトの URL がリンクされているからである。このリンクは須川がサイト管理者にお願いしてリンクしてあったものだった(詳細は須川 2008 参照)。

ところでキルドとクラスは共に熱心にカモメ類のカラーマーキング調査をしている人である。二人の名前で画像検索をすると二人のかかわっている世界が理解できる。

日本のユリカモメのマーキングサイト情報は、キルド経由でイーゴルに届けられた。イーゴルは英文ページだけでなく、和文ページまで見てマガダンで撮影されたのと同じタイプのユリカモメの足環の写真を見つけた。

日本鳥類標識協会のホームページではカラーマーキング情報を英文と和文で紹介している。英文ページは須川が以前つくったままで更新されていない。和文ページは澤祐介が更新して、東京都・隅田川で使っている青色の足環と、千葉県行徳野鳥観察舎の佐藤達夫が使った白色の足環の写真も掲載されていた。イーゴルは見つけた白い足環の画像をロシア・ブログにも転載して「標識地は日本だ。問い合わせるべきアドレスも判った。でも誰が

連絡すべきか」とつぶやきを書き込んだ。自分でやるしかない。3月22日の、英文ページに掲載されていた須川ほかのアドレス宛に、イーゴルは以下の短いメールを送った。

>From: Igor Karyakin <ikar_research@mail.ru>

>To: cxd00117@nifty.ne.jp

>Subject: Larus ridibundus

>Date: Sat, 22 Mar 2014 18:50:44 +0400

>Dear colleagues,

>You may know who and where ringed this bird?

(※1)>http://rrrcn.ru/forum/download/file.php?id=793&mode=view/DSCF1575_cr-1.jpg

(※2)>Information in Russian:

<http://rrrcn.ru/forum/viewtopic.php?f=4&t=118&p=1288-p1288>

>Best wishes, Igor

須川がこのメールの(※1)の URL をクリックすると、白 P のカラーリングをつけたマリナが撮影したシャープなユリカモメの写真が出てきた(写真1)。また(※2)の URL は、上記のやりとりをしているロシア・ブログだった。

もう一つのメールを、須川は3月24日に上記のデンマークのキルドから受け取った。

これは、イーゴルがキルドへ問い合わせた内容と、メーリングリストを通してディークから得た情報を転送してきたものだった。

ロシア・ブログのほうはロシア語のやりとりだが、自動翻訳をかけるとだいたいの内容は判る。また、キルドからのメールによって、須川にメールが来るまでのいきさつも判った。

イーゴルへの返事

イーゴルからメールをもらって標識ユリカモメの写真を見て、これは千葉で佐藤が標識した個体だと確信した。3月23日に、これは千葉県野鳥観察舎の佐藤が標識したもので、彼がいつつけたかも連絡してくれるでしょうと、とりあえずの返事をイーゴルへも送り、佐藤らへも同報した。行徳野鳥観察舎を説明する英文サイトもあったので URL を紹介しておいた。3月23日中に、イーゴルから須川へありがとうと返事が来た。また、3月23日中に、佐藤から、この個体は2011年1月19日に標識したもので、標識時は成鳥だったこと、翌冬は2012~2013年の冬も千葉や東京で確認されていたが、今冬(2013-2014年)は未確認だと返事が来た。

佐藤からの情報を加え、またマガダン周辺にユリカモメの集団営巣地がないかを知りたいと書いて、須川はイーゴルに返事をした。同じメールはキルドにも同報し、ヨーロッパのカラーリングのグループに、日本鳥類標識協会の URL が2014年4月1日以降変わることを連絡して欲しいとお願いした。

3月24日キルドからすぐに返事が来た。

須川のメールをヨーロッパのカラーリングのメーリングリストに、日本鳥類標識協会の新しいサイトを紹介したメールの同報で、「みんな、新しいホームページを訪問して、われらのあたらしいカラーリング仲間に、ようこそと挨拶しようぜ」といった感じの以下の文だった。

>Hi,

>Please visit this home page: <http://birdbanding-assn.jp/>

>- and say welcome to our new cr-friends :-)

>Best wishes Kjeld

イーゴルからも、3月25日に返事をもらった。マリナ撮影の白Pの別テイクの写真が3枚添付されており、春秋の渡りの時期にはマガダンではとても多くのユリカモメが見られるが通過するだけで、「マガダン市北方500km」のコリマ川流域ではユリカモメは繁殖していると書かれていた。

須川はこの情報を見てピンとくるものがあった。

日本のユリカモメの国外回収記録はカムチャツカからのものが多いが、少数ながら(2例)マガダン付近を通過して、コリマ川流域とつながるものがある。環境省生物多様性センターのサイトにあるユリカモメの回収記録をWEBGISで示すサイト情報(文章は日本語なのだが)を見るとこの回収例がわかると返事を書いた。

ロシア・ブログを覗くと、早速イーゴルが、WEBGISで示されるユリカモメの回収情報の図も転載してサイト情報を紹介していた。日本とロシアを結ぶ直線に触れると足環番号や放鳥日・回収日などの情報が出てくるしかけとなっているが、イーゴルはそれも理解して1979年と1988年の2例の回収例があると紹介していた。

イリナが3月19日にロシア・ブログに白Pのことを書き込んでから1週間でこれだけのやりとりがあった。カラーマーキングのネットワークの威力である。これだけのネットワークをつくってきた人々の努力と、それを活用する人々のネットワークでもある。

京都発マガダン付近経由コリマ回収と白Pの詳細情報

実はコリマ川流域(ヤクート共和国)と日本をつなぐユリカモメの2例の回収記録のうち1988年6月4日にヤクート共和国で回収された080-07326は京都で須川が標識したユリカモメであった。しかし、この回収例について須川は今まであまり意識していなかったもので、過去の記録を調べてみた。

この個体は1982年12月7日京都市鴨川葵橋付近において無双網で捕獲して標識した25羽のうちの1羽である。捕獲時は成鳥で、左足に黄色の26と刻印されたカラーリングを装着した。この個体がマガダン付近も通過して1988年6月4日に3852km離れたコリマ川流域で回収された。須川は回収の連絡をもらったはずだが、その記録は見当たらず、黄色26も見つかったかどうかについて連絡があったかどうかは記憶にない。もう一例の1979年回収というのは、1979年8月8日にヤクートでOM4-65901の足環をつけて放鳥

され 2575km はなれた北海道浜頓別町で 1979 年 10 月 8 日に回収されたものである。この記録から放鳥地にユリカモメの営巣地があることがわかる。

1978 年にカムチャツカのコロニーで放鳥した個体(P605800)が 1979 年 2 月に大阪で回収されたことがきっかけとなり、カムチャツカのニコライ・ゲラシモフと須川が連絡を取り、1980 年 12 月には京都の鴨川でカムチャツカ発の個体の回収に初めて成功した。実は 1982 年 12 月 7 日に鴨川で捕獲した 25 羽の中にも、ねらったわけではないがロシアリング P870340 の足環をつけた個体があった。この個体はニコライが 1982 年 7 月 17 日にカムチャツカのコロニーで幼鳥に標識したものであることが、ニコライから既に受け取っていた情報からすぐにわかった。

佐藤の勤めている千葉県市川市行徳野鳥観察舎では冬期に給餌場にあつまるとカモメ類を手取りして標識調査をしている。最近ではセグロカモメにカラーリングだけでなくジオロケータを装着・回収し、謎につつまれていた繁殖地についての情報が得られつつある。

ユリカモメへ本格的に標識を開始したのは 2010～2011 年の冬からである。この冬には澤も隅田川でユリカモメへカラーリング標識調査を開始している。行徳では 2013～2014 年の冬までに計 189 羽に標識をした。そのうち幼鳥は 12 羽である。年度別のカラーリングは以下である。

2010～2011 年 白(黒文字)A～U※ 計 20 羽 ※傷病鳥の回復個体 1 羽に数字一文字

2011～2012 年 青(白文字) A/A～A/X 計 15 羽

2012～2013 年 青(白文字) B/A～F/N 計 97 羽

2013～2014 年 青(白文字) G/A～J/T 計 58 羽

白 P は最初の冬に標識した 20 羽のうちの 1 羽である。

白 P に関する放鳥時の情報は以下である。

放鳥情報 2011 年 1 月 19 日 性不明・成鳥 千葉県市川市行徳野鳥観察舎(丸浜川)

右足：環境省リング 8A28539 左足：白リング P

自然翼長：299mm 尾長：119mm 全頭長：93.4mm。

白 P の放鳥後の観察記録は以下。

2010～2011 年冬

2011 年 1 月 31 日市川市こごと南公園、2 月 4 日と 4 月 19 日(終認)市川市江戸川放水路

2011～2012 年冬

2011 年 11 月 1 日(初認)市川市江戸川放水路、2012 年 3 月 18 日(終認)観察舎

2012 年～2013 年冬

2012 年 12 月 20 日(初認)市川市江戸川放水路、2013 年 1 月 9 日、21 日東京都荒川区南千住 8 瑞光橋(隅田川)。3 月 2 日観察舎で初認、3 月 21 日(終認)観察舎。このうち 1 月 9 日隅田川で確認した個体は和田求司撮影の写真がある(写真 2)。

同じ個体が夏羽になって 2013 年 5 月 30 日ロシア・マガダンで撮影(写真 1)されたわけである。

2013年～2014年冬は2014年4月7日時点まで確認されなかった。

2012～2013年以前に放鳥した132羽中、63羽(約48%)が観察舎で帰還が確認されているので、この白Pがあまり観察舎で見つからなかったのは、観察舎依存タイプでは無いからだと思われ、今後も見つかる可能性がある。



写真2 白Pのカラーリングをつけた冬羽のユリカモメ

(2013年1月9日東京都荒川区南千住8瑞光橋(隅田川)、撮影和田求司)

文 献

[須川恒\(2008\)ユリカモメの渡り研究で見えてきた標識調査の連携関係.](#)

ALULA(No.36,2008 春号):38-49.

[須川恒\(2011\)ユーリングのガイドラインから日本のカラーマーキングを
考える.ALULA\(No.42,2011 春号\):38-42.](#)